

水巻町にはこれといった特産品がない？ いいえ。環境を考慮し、解体木くずから特産品づくりをと今広まりつつある「きんぐにんにく」があるのです。

### きんぐにんにくと まちおこし

環境のために解体木くずから考え出した「ゆめ育土」(小さく破砕した草に発酵促進剤を混ぜて、1年半から2年ほど発酵させて作った土壌改良材。肥料や連作で土がやせてしまったのを元気にする効果がある)。

その過程で水巻町商工会副会長の野坂時夫さんは大きな出会いをします。

「今から4年くらい前になるんですが、環境問題をとおして知りあった人がきんぐにんにくを作っていて、「おっこれだ」って思いましたね」。

当時、水巻町商工会ではまちおこしと次代を担う経営者の育成のために「チャレンジシヨップ夢工房」と「有機農産物直売センター」を町内に作ろうと計画していました。

でも、「水巻町にはこれといった特産品がないでしょう」。



↑農産物直売センター  
→きんぐにんにくを手にもち夢をふくらませる野坂さん

水巻の夢工房に行ったらこれが見えるという目玉がないんです。だから、ゆめ育土を使ってきんぐにんにくを作る、そしてそれを夢工房で売れば、これはいいまちおこしになるかもしれないと思いました。一日勝負の野菜と違って、にんにくは保存もきくし加工もできる、色々と応用がきくすからね」と野坂さん。

そこで、野坂さんは知人の

協力を得て、4年前からにんにく作りとまちおこしを始めた。

### だんだんと広まる きんぐにんにく

「初めて、きんぐにんにくを見た人は驚きますよ。まるで玉ねぎみたいってね」

にんにくの植え付けは10月中旬ごろ、収穫は6月上旬です。

現在、きんぐにんにくは約900坪の畑などで栽培され、昨年は2トントラックいっぱい収穫ができたそうです。

「今はこのにんにくを使ってドレッシングや味噌、しょうゆなどを作っています。お中元などでも東京や岡山から注文が入ってきていますね。でも、このきんぐにんにくでの町おこしはまだ始まったばかり。いつかはきんぐにんにくといえは水巻町と言われたいですね」と笑う野坂さん。



→見るからに存在感のある「きんぐにんにく」